

シンポジウムの開催に向けて

2015年に「持続可能な開発目標（SDGs）」が国連で全会一致（193カ国）で採択されました。我が国では、2016年に、内閣総理大臣を本部長とする「SDGs推進本部」が設置され、「持続可能で、誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」ことをビジョンとした「持続可能な開発目標実施指針」が策定されました。この目標は、政府や自治体、非政府組織、非営利団体だけでなく、民間企業や個人などにも共通した目標です。

我が国では、コミュニティ・レベルを含めた官民が連携した保健医療システムを有するとともに、少子化・高齢化、震災復興などへの対応を、多様なステークホルダーの参加と連携により進めてきた経験を有しています。

多様化する国際社会において、国際保健の分野でのそれら経験・知見を基に、日本が主導的な役割を果たすことが期待されています。

本シンポジウムでは、SDGs達成のための地域を基盤とした健康づくりの取組を共有し、今後の我が国の公衆衛生活動のあり方を再考したいと考えています。



国立保健医療科学院 院長

福島 靖正

1984年旧国立公衆衛生院採用、研究に従事。1987年旧厚生省に移り、公衆衛生行政に従事。精神保健医療福祉、感染症対策、健康危機管理等の担当を経て、2015年大臣官房審議官（医政局担当）、2016年健康局長、2018年から現職。法務省、農水省、内閣府や埼玉県東松山保健所、和歌山県、熊本市での勤務も経験。

座長 紹介



国立保健医療科学院 次長

曽根 智史

専門は地域保健、人材育成、国際保健協力等。当院において、公衆衛生政策部長、国際協力研究部長、企画調整主幹等を経て2015年より現職。地域保健法基本指針や保健師活動指針の改定にも関わる。

基調講演

持続可能な開発目標（SDGs）の背景と国際展開

杉下 智彦（東京女子医科大学 国際環境・熱帯医学講座 教授／講座主任）



外科学、公衆衛生学、医療人類学を修める。アフリカを中心に30か国以上で保健システム案件の立案や技術指導に携わる。「持続可能な開発目標（SDGs）」の策定の国際委員。2016年10月より現職。2016年医療功労賞受賞。JICAグローバルヘルスアドバイザー。

2015年9月、国連サミットにおいて「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択され、「誰ひとり取り残さない」ことが求められる新しい時代に入りました。これは、従来の「貧困削減」とは異なり、地球上のすべての人々が高度な消費社会を見直し、新しい価値観に基づく「社会変革」の取り組みです。保健分野では「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ」の達成が目標として掲げられ、健康格差の増長を未然に防ぐ努力が求められています。国際社会の共通目標としてのSDGs誕生の背景およびその国際展開についてお話ししたいと思います。

教育講演 1

「いのち輝く神奈川」に向けたSDGsの取組

山口 健太郎（神奈川県 理事（いのち・SDGs担当））



1983年神奈川県庁入庁。米国ロサンゼルス駐在員、新産業振興課課長代理、交通環境課長、太陽光発電推進課長、国際戦略総合特区推進課長等を経て、2016年ヘルスケア・ニューフロンティア推進統括官、2018年4月より現職。

2018年に「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」の両方に都道府県として唯一選定された本県は、「いのち輝く神奈川」の実現に向けて、総合計画とSDGsを一体的に推進しています。

本講演では、93自治体の賛同を得た「SDGs日本モデル宣言」や健康長寿に向けた未病改善の取組、人生100歳時代に向けたコミュニティづくり、「かながわプラごみゼロ宣言」など、全国をリードする取組について講演します。